

教科名	科目名	単位数	年・組
社会	歴史的分野・公民的分野	4	中学3年1組～3組

使用教科書	副教材
新しい社会 歴史 (東京書籍) 新しい社会 公民 (東京書籍)	よみとき総合歴史 神奈川県版 (浜島書店) 最新 公民資料 (浜島書店) 中学実力練成テキスト 社会歴史 (文理) 中学実力練成テキスト 社会 全 (文理)

1. 学習の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・現代の社会的現象に対して関心を深め、様々な資料を多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を養い、公民的資質を育む。 ・国際社会に生きる現代人として社会の諸問題に着目させ、人類の福祉の向上のための方策を自ら考える態度を育てる。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
社会的事象に対する関心を高め、意欲的に追及し、よりよい社会実現を考察し、公民としての自覚と責任を持つとする。	社会的事象から課題を見出し、その意義や特色、他の事象との相互の関連性を考察し、健全で公正な判断力を持ち、自らの生き方についても考える。	社会的事象に関する有用な資料を適切に選択し、活用するとともに、それらを追求し、考察した過程や結果を適切に表現する。	1つの社会的事象に関する基礎的な内容の理解や、意義の理解、その歴史的背景など、多面的・多角的に理解し、知識を身に付けている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第7章 現代の日本と世界 1節 戦後日本の発展と国際社会 2節 新たな時代の日本と世界	[歴史的分野の継続] ・敗戦後の日本を、民主化政策や憲法制定を中心に理解させ、世界の中の日本の立場を考えさせる。 ・東西対立など揺れ動く国際情勢についての理解を深めさせる。 ・高度経済成長期以降の日本の歩みを理解させ、21世紀の日本と世界について考えさせる。	授業態度 ノート提出 小テストの成績 課題提出 定期試験の成績
	5	第2章 個人の尊重と日本国憲法 1節 人権と日本国憲法 2節 人権と共生社会 3節 これからの人権保障 第3章 現代の民主政治と社会 1節 現代の民主政治 2節 国の政治の仕組み	・個人の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に、具体的な学習活動などを通して意欲的に追究させるとともに、法の意義を理解させる。 ・日本国憲法の基本原理（国民主権、平和主義、基本的人権の尊重）を、社会の形成者としての立場から、具体的な生活とのかかわりを通じて理解させ、個人の尊厳と両性の本質的平等、自由・権利と責任・義務の関係が社会生活の基本となっていることに気付かせる。 ・現代社会の様々な人権課題の解決や、共生社会の実現に向けての取り組みに、社会の形成者として積極的にかかわろうとする態度を育てる。 ・身近で具体的な事例を通して政治に関心を持たせ、主権者として積極的に政治にかかわっていかこうとする意欲と態度を育てる。 ・議会制民主主義や住民自治の意義などについて考えさせる。また、選挙をはじめとする国民の政治参加によって、よりよい民主政治が運営されていくことに気付かせ、良識ある主権者としての政治参加のあり方について考えさせる。 ・新聞記事や統計資料などを活用し、現実の政治の動きを多面的・多角的にとらえさせる。	

2	6	3節 地方自治と私たち	<ul style="list-style-type: none"> ・国会を中心とする日本の民主政治の仕組みのあらましや、地方自治の基本的な考え方について理解させる。同時に、法の意義や法に基づく公正な裁判の保障について理解させる。 ・統計資料や図、新聞記事などの様々な資料を収集・選択したり、読み取ったり、その結果をわかりやすくまとめ、表現したりする学習を通し、経済的事象をとらえる見方や考え方の基礎を養う。 	授業態度 ノート提出 小テストの成績 課題提出 定期試験の成績		
		第4章 私たちの暮らしと経済	<ul style="list-style-type: none"> ・経済活動が、人間生活の維持・向上のために欠かすことのできないものであることを、身近な消費生活を通して理解させる。 ・無限で多様な人々の欲求に対し、社会の資源は有限であり、その資源からどの財やサービスを生産するかを価格を考慮して選択するという、市場経済の基本的な考えを理解させ、現代の生産や金融の仕組みや働き、企業の役割と責任について考えさせる。 			
		7	2節 生産と労働		<ul style="list-style-type: none"> ・国民の生活と福祉の向上を図るために、市場の働きにゆだねることが難しい諸課題の解決において、国や地方公共団体が果たしている経済的な役割に気付かせるとともに、財源の確保と配分という観点から財政のあり方について考えさせる。 	
	9	3節 価格の働きと金融	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会が抱える諸課題について関心を高め、様々な資料を適切に収集・選択して多面的・多角的に考察させるとともに、その解決のための国際的な努力について理解させる。 ・事実を正確にとらえ、公正に判断し、適切に表現できる能力と態度を育てる。 			
		4節 政府の役割と国民の福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的な相互依存関係の深まりの中で、世界平和の実現と人類の福祉の増大のために、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことが重要であることを認識させる。 ・国際社会における日本の役割やあり方について考えさせる。 			
	10	5節 これからの経済と社会	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会を形成するために、自分たちに何ができるかを考えさせる事を通し、社会参画するための手がかりを得させる。 ・持続可能な社会を形成するために解決すべき課題を探究することを通して、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方を身に付けさせる。 			
		第5章 地球社会と私たち	<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習を通じて、中学3年間で学習した地理的分野、歴史的分野及び公民的分野の総復習をし、特進選抜試験に向けての準備とする。 ・中学3年間の全復習を通じ、知識の整理と系統立てを完成させ、高校進学への準備とする。 			
		11	1節 国際社会の仕組み		<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが生きる現代社会を概観し、学ぶことで、公民的分野への関心を高め、これ以降の学習につなげる。 ・地理的分野、歴史的分野との関連を図るとともに、様々な条件や要因からとらえさせるなど、多面的・多角的に考えさせる。 ・様々な資料から、現代日本の特色や、現代社会における文化の意義について読み取らせ、現代社会をとらえる力を育てる。 ・現代日本の特色としてグローバル化、情報化、少子高齢化などが見られ、それらが政治、経済、国際関係に影響を与えていること、又現代社会における文化の意義や影響について理解させる。 	
	3	12	2節 さまざまな国際問題		<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方があることを、具体的な社会生活と関連付けて理解させる。 	授業態度 ノート提出 小テストの成績 課題提出 定期試験の成績
			3節 これからの地球社会と日本		<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方があることを、具体的な社会生活と関連付けて理解させる。 	
終章 よりよい社会をめざして			<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方があることを、具体的な社会生活と関連付けて理解させる。 			
1		第1章 わたしたちの生活と現代社会	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方があることを、具体的な社会生活と関連付けて理解させる。 			
		1節 現代社会とわたしたちの生活	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方があることを、具体的な社会生活と関連付けて理解させる。 			
2	2節 わたしたちの生活と文化	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方があることを、具体的な社会生活と関連付けて理解させる。 				
3	3節 現代社会の見方や考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方があることを、具体的な社会生活と関連付けて理解させる。 				

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。